

ヒッグス粒子発見

ATLAS Experiment © 2013 CERN

2013年ノーベル物理学賞にかがやいた「ヒッグス粒子」。
ヒッグス粒子は、宇宙を今ある姿にするには欠かせない存在であるが、
これまでとらえることが出来なかった。
世界の研究者が集結して作った最先端の研究装置LHCで
ついにとらえることに成功した。
そのドラマと、素粒子研究の今後に迫ります。

2013年11月9日^土 12:00 開場 13:30 開演

場所／東工大蔵前会館 くらまえホール
最寄り駅：大岡山駅（東急 目黒線・大井町線）正面

参加費・
参加登録
不要

定員／300名（先着順）

登壇者／陣内 修（東京工業大学 大学院理工学研究科）
北野龍一郎（高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所）

共催／東京工業大学 大学院理工学研究科 基礎・物性物理学専攻
東京大学 素粒子物理国際研究センター
新学術領域研究 「先端加速器 LHC が切り拓くテラスケールの素粒子物理学」